平成 31 年度　西砂学習館運営協議会（令和元年 6 月）会議録概要

日　時：平成 31 年 6 月 13 日（木）午後 6 時～9 時 00 分
出　席：大槁　加藤　広瀬　進藤　長谷川　岩元　小林　森　増田
事務局：石川　俣本
欠　席：小笠原
地域学校コーディネーター：俣本（哲）　鈴木　松澤　渡邊　稲垣

1.　開会のあいさつ
大槁：地域学校コーディネータを迎えて会議ができることを嬉しく思っている。学校と地域が一体になり子ども達の学びを支援する気運に立川がなっている。学習館としてどう連携し学校を支援できるか早く話し合いができればと待っていた。

2.　地域学校コーディネーターについて
（１）地域学校コーディネーター・運営委員・事務局　自己紹介
（２）地域学校コーディネーターの活動
五十嵐：地域学校コーディネーターと運営協議会委員の顔合わせの機会を頂きありがとうございます。「立川市地域学校協働本部事業について」資料参照。学校長の推薦の元、地域と学校を結ぶ地域学校コーディネーターを設置した「学校支援地域本部」が平成 30 年度より「地域学校協働本部」へと名称を変更した。【学校支援地域本部事業】、平成 30 年度地域学校協働本部事業活動内容資料参照。名称変更前の取り組みの経過や実際に取り組まれた内容が記載されている。各委員の自己紹介、活動の紹介をお願いします。

俣本（哲）：松中小の地域学校コーディネーターとして 3 年目。地域学校コーディネーターとしての活動は、運動会での熱中症予防のためのテントの準備。近隣自治会へテントの借用依頼、テントの回収、テントの返却を有志の保護者で実施。テントの設営は学校が行った。
　松中小の別の地域学校コーディネーターは子ども達の読書活動や、畑体験を担当されている方等いる。
鈴木：西砂小の地域学校コーディネーターとして 2 年目。学校からの依頼を受けて活動する受動的な動き。具体的には、PTA 交通安全教室や放課後子ども教室での足りない部分、農業体験の畑整備、子ども達の栽培委員会と連携等。大きい活動としては、校庭に築山という遊具があり、立ち入り禁止になっていた。調べると、4 期生の卒業制作のため、地域で直すことができると 50 周年時に修復をした。今後も定期的に本部で有志の保護者を集めて、修復するとなった。突発的なところでは、オリパラ教育の一環で

中国人を紹介して欲しいと依頼があり、紹介し、打合せや活動に立ち会った。

松澤：松中小の地域学校コーディネーター。校内美化で活動をしてほしいと学校から依頼を受け、学校内に年間を通じてお花を生けてる。お花への子ども達のいたずらが無く先生方が関心している。造形展、卒業式、入学式でお花を生け、皆さんに喜んで頂いた。

渡邊：七中の地域学校コーディネーターとして 2 年目。校長先生以外の先生方に地域学校コーディネーターは浸透していない。校長先生からは、水泳授業時の障がいのある生徒の見守り、部活へのフォロー、不登校の生徒の見回り活動ができる方の要請だったが、募集をしてお世話をするまでに至らなかった。不登校の生徒の見回りは、自分が担っていたが今年 3 月でやめさせて頂き出来る方を募集している最中。2 人の生徒は見回りをすることで学校へ来るようになった。

五十嵐：資料「【学校支援地域本部事業】平成 28 年度実施状況報告」参照。「学校支援地域本部」が前身になっている。このときは市内 5 校で試行的に開始。名称から、地域で学校を支えましょうと一方通行の制度であった。裏面「平成 29 年度実施状況報告」参照。8 校が増えて 13 校で取り組みを開始。資料には取り組みの事例が記載。そして、30 年度に「地域学校本部事業」に名称が変わった。今までは一方的に地域が学校を支援する制度だったが、これからは双方向で協力しながら子ども達を育成しようという制度になっている。先ほど地域学校コーディネーターから話があったように取り組み開始後は中々この制度が認識されていないという思いもあった。なので、地運協に制度を理解して頂き、地域学校コーディネーターだけでは賄いきれない部分でお力添えが頂けるよう今回顔合わせの機会を設けた。平成 31 年度からコミュニティ・スクールが立川市立の全ての小・中学校で実施が始まった。コミュニティ・スクールとは学校運営協議会を設置し、地域の皆さんに学校経営に参画して頂く取り組みで、まさに地域と学校が一緒になって取り組むことを目的としている。取り組むことが決まると、地域学校コーディネーターにご活躍頂き、実際に取り組みについての支援や人材確保を担って頂きたいと思っている。そうなると、広範囲に地域学校コーディネーターが当たらなければとなると、地域で活動している地運協の皆さんに相談して頂ければ、幅広く協力頂けると思う。

社会教育からの立場でいうと、学社一体とあるが、社会教育から学校への提案は難しい部分がある。学校は学校教育で手がいっぱいなので、その中で一緒にと言っても始まらない。今ある制度で地域学校コーディネーターが学習館を使い、地域の資源を学校の取り組みに活かせれば学校の認識も変わるのではと感じる。学校から学習館に協力依頼したらこんなことができるのではと、広がりがもてたらありがたい。

資料「H30 年度地域学校協働本部事業活動内容」参照。職場体験は、学習館に依頼を

すれば体験場所が広がるのではと感じる。実際立川市立第五中学校では砂川学習館を職場体験の場に活用。学校が地域の方を対象にしたイベントのポスター掲示の場として学習館は活用できる。利用者団体へもご案内ができる機会もある。今まで以上に周知の面で広がりがもてる。例えば、立川市立第六小学校の「湯ったりあったか羽衣プロジェクト」は地域にある銭湯の良さを知ってもらおうと子ども達主体で報告会をした。その報告会が学習館できたら、学社一体に１歩近づける。地域学校コーディネーターが地運協に相談できる間柄になれば、その取り組みの１つになるのではと思う。

大槁：運営協議会の会長。仕事は学校関係で、人権擁護委員等をしている。
加藤：運営協議会の副会長。市民交流大学の市民推進委員等色々と活動している。
広瀬：運営協議会の立ち上げからいる。企業の研修の企画をしていた。今は市民交流大学で活動している。
進藤：6 地区地域福祉コーディネーターをしている。地域の拠点づくりをメインに活動。
長谷川：青少健から派遣。松中算数教室、放課後こども教室をしている。地運協は 2 年目。
岩元：文化会からの派遣。青少健の役員、保護司等をしている。今日は麦刈のお手伝いに行った。
小林：地運協は準備会から参加。市民交流大学も立ち上げから参加。フリースペースも立ち上げからいる。やめないでいてくださいとお声をいただき今に至る。
森：学習館を利用する団体。パソコン倶楽部を立ち上げて 10 年くらい。子どもが成人してからこの地域に越して来た。この会を通して地域の勉強をしている。まだまだ知らないことも多いが地域のためにお役にたてればと思っている。
増田：シルバー職員として砂川学習館、西砂学習館で約 10 年間勤務した。中に入ってみると行政運営の良い面と悪い面が見えてきた。残念ながら立川市の行政運営に関する計画は、共通して実行を前提とした計画ではないと感じる。今回の学習館運営協議会の活動は、行政主管部門の主導下で小中学校（教師・児童・生徒・父兄）とが有機的な繋がりを深める中で、情操教育等に生かせる活動にしたい。

（３）地域学校コーディネーターと地域学習館の連携・協働（協議）

①地域学校コーディネーターから地域への支援の要望
②地域学習館運営協議会委員が可能な地域への橋渡し

五十嵐：コミュニティスクールがスタート。学校からの依頼があり動くというかたちは続くのではと思うがその中で地運協のお力をお借りできればと思う。地運協の会議は月に１回。学習館には職員がいるのでお困りのことがあればご相談に来て頂き、学習館を活用して頂けたら嬉しく思う。

大槁：地域学校コーディネーターと顔合わせができて大変良かった。今後、学校から要請

を受けて、地域学校コーディネーターと地運協が話し合いながら、人材やスペースを活用して、どんな学びができるかという話が少しずつ具体化してくるかと思う。地運協ではこの地域を対象に学習館を拠点として学びがスタートして、ここに生活して本当に良かったと思えるよう講座を企画している。現在取り組んでいるのは、①「西砂サマーイベント～火曜日は学習館に行こう！～」。3 年目。午前中は自由研究になるような講座を実施、お昼は地域に寄付して頂いた食材でランチを作り、子ども達と食べる。午後は大学生や高校生に協力してもらい小学生の宿題をする時間とする。5 日間だけだが、継続することに意味があると思い 3 年目も実施。②「パパもママも学びたい！楽しみたい！にしすな夜間塾」働いている保護者対象。会場を児童館移し、金曜日の夜間に開催。新しく引っ越してきたばかりの保護者の地域デビューを含めて企画している。

学習館にはもろもろ学んでいる方がいる。この方達が学校教育の中に入ったら変わるのでと感じる。学校から声があれば学習館として、地域学校コーディネーターと話をしながら学ぶ場を考えて提供をできるのかなと思う。子ども達が学んだり生活するのが楽しくなるのが七中学区になるのかなと、そのような思いでいっぱい。

渡邊：この会があることが知らなかったことが残念。七中に来て説明していただくと良い。

大槁：サマーイベントのチラシをお持ちし校長先生にお願いに行く予定。小学生には全校配布。松中小西砂小限定講座になる。

大槁：コミュニティスクールが始まる。地域が学校教育に思いを伝え、学校が受けてそれではという動きがでてくるかもしれない。顔合わせができたことは嬉しく思っている。

【地域学校コーディネーター退席】

森：待つだけでなくこちらからアピールするのも大事。

岩元：サマーイベントでボランティア募集と一緒に人材バンクが作れたら良い。

大槁：学習館利用団体の人材バンクは必要。また、学習館を利用していないが人材はいるので、そこを拾わないとと思う。この学区に文書を流して地域の人材バンクを吸い上げたい。また、人材バンクがあれば七中にも声をかけやすい。

広瀬：学校に任せきりではだめ。人材バンクは学習館でリストアップできる。

岩元：子ども達の教育に少しでも役に立ちたいと、心を燃えさせるような取り組みも大事。

森：学習館にはサークルがいっぱいある。そこの活動に合わせて「これぐらいだったらできる」という内容をアナウンスしたら気楽な気持ちで受けて頂けるのではと思う。

大槁：体育会にはどうしたら早く走れるか、書道サークルには墨の磨り方、筆の始末など。人材バンクは作ったほうが良いし、学習館利用団体の人材バンクは必要。また、学習館を利用していないが人材はいるので、そこを拾わないとと思う。この学区に文書を流して地域の人材バンクを吸い上げたい。

長谷川：今学校も手探り状態。校長がどこまでお願いしていいかわからない状況なので、

この会議に参加頂き、学校は何を求めているか、校長先生のお考えを知りたい。そうすればどう協力したら良いのかがわかる。

岩元：今回立川市がコミュニティ・スクールを設立し、地域と共にある学校を作った。やっと大槁先生がこれまでやっていたスタートラインにきたのが現状。

森：地域学校コーディネーターは学校から地域の橋渡しだが、地域から学校への橋渡しも出来たら良い。校長先生が来て下さればベストだがかなわないなら、地域学校コーディネーターにこの会議の内容を知らせ、学校に伝えて頂けたら良い。

加藤：地域学校コーディネーターとパイプができたので、いかに太くするか。地域学校コーディネーターにオブザーバーとしてこれからも会議に参加して頂いたら、地運協の活動をもっと知って貰える。

広瀬：学校を支援しようというのは、決して学校からではなく、こっちから学校へというコーディネートが大事。住民からやらなければそれが子どもを育てる地域をつくるので良い。昔は地運協に副校長が来てくれた。

大槁：学校の意向も聞きたい。

【学校地域コーディネーターの稲垣さん遅れて出席】

稲垣：松中小の地域学校コーディネーターとして 2 年目。松中小で本の修理や貸し出し、季節を感じる壁面のお手伝いをする図書ボランティアをまとめる活動をしている。松中小は朝読書の時間が木曜日の 8：15～8：30 にあるが、その読み聞かせをしてくれる人探しが難しいと感じているところ。今年は在宅で仕事している保護者から時間があると言ってくれているので、子ども達がこれる時間に図書室を開ける状態になりつつある。ボランティアは負担にならないよう、活動を自分も楽しむという気持ちを大事にしている。

　読み聞かせは、以前は各クラスの代表委員が調整をし、全保護者対象に取り組んでいたが、負担に思う保護者が多くなったので楽しめる保護者を集めて活動をすることになった。

大槁：お手伝いは地域の人でも可能なのか。保護者だけで完結しようとすると難しい。募集をする場合は地域も視野に入れてほしい。

岩元：地域の方が入ると、お手伝いをする高齢者世代も子ども達にとっても良い。ここを窓口に地域の方にボランティア登録してもらうとか。

広瀬：講習は受けるのか。

稲垣：特にない。一昨年は図書館に声かけてもらい、読み聞かせの講習会を開いた。その時教わったのは読んでいる人が楽しむということだった。

大槁：学校が受け入れてくれたらありがたい。

3.　平成 31 年度地域活性化講座について

（1）「西砂サマーイベント～火曜日は学習館に行こう！」について

石川：チラシ参照。「みんなの西砂川」でも掲載予定。1回目、5回目の「浮沈子のなぞ解きをして作って遊ぼう」のペットボトル(炭酸形)は学習館で60個用意する。
広瀬：ペットボトルの問題やリサイクル、エコの話を簡単で良いので子ども達に伝えたい。
加藤：気象講座でペットボトルを使った時はヤオコーへ貰いに行った。

（２）「西砂川での災害を考える〈第4弾〉被災時クッキング」について
石川：来週講師と打ち合わせする。災害時に家の中にある食材で何が作れるか、災害時クッキングをする。詳細は次回の地運協で報告する。

（３）その他
石川：資料１、２参照。「地元を学ぼう！」は進展なし。
大槁：松明祭の文化伝統と地域を学ぼうをドッキングして講座を開けないか。
広瀬：新しい住民は若い方が多い。この地域の歴史を学ぶ機会をイメージしていた。
大槁：以前講師をした鈴木さんは体調的に難しいとのこと。笠井さんはどうか。
岩元：笠井さんに確認してみる。この地域の映像もあるのでフィルムを探してみる。

4.　報告及び連絡事項
（１）前回の議事内容の確認（議事録）
大槁：何かあれば事務局まで。

（２）西砂学習館まつりについて（報告）
石川：次第裏参照。先日高松学習館の学習館まつりに参加。そこでは演奏会は展示会と別日に実施。なので、広いホールを展示室として使っていた。西砂学習館も視聴覚室を展示に使えればスペースが広がるので、発表会日を変えるのも良い。
大槁：地域の方が子どもの作品を見る機会が無いので、学習館が発表の場になればありがたいが、スペースの問題を考えないとと感じる。
岩元：西砂文化祭は三校の展示がある。今回、西砂学習館祭りで大槁先生のパネルが狭いスペースにあったのは残念だった。
小林：発表会と作品展を分けるとスムーズに片付く。
石川：6月26日に学習館まつりの反省会があるので、その話を提案する。

（３）フリースペースについて（報告）
小林：6月1日ハンバーグ、6月15日寄付して頂いた野菜でカレーとハムカツを予定。
大槁：子ども達に体験させることをメインに調理している。子ども達には包丁をきちっと使えるよう指導。

（４）各委員から報告及び連絡事項

加藤：西砂学習館での市民企画講座は「クラシック音楽入門講座」、「交流クッキング」を予定。この他に「エクセル講座」を森さんと調整して会場を西砂学習館で検討中。

広瀬:「クラシック音楽入門講座」を毎年西砂学習館で実施。高校生以下は無料で受講可能。

長谷川：5 月 18 日青少健の総会が無事に終了。今日は麦刈があり、岩元さんが同行。7 月 4 日青少健の第 1 回地区委員会。7 月 12 日第 1 回松明祭実行委員会。松明祭りは 8 月 17 日予定。

岩元：7 月 5 日文化会役員会を予定。下半期の行事を決める。9 月は文化会研修会を予定。11 月 3 日、4 日文化祭を予定。地域の文化会は立川文化協会の会員。立川文化会から参

加依頼の話があるが、作品があまりない。活動されている方はいるので広く声掛けしようと意見がでている。

小林：特にありません。

森：西砂パソコン倶楽部では、5 月 21 日活動。今年初めからエクセル講座を連続し実施。活動は講座と個別相談を交互に実施し、マンツーマンの時間を取り入れるている。

増田：6 月 5 日から市議会が始まった。議員に事前に質問内容を伺い議会を傍聴する。行政運営上の課題等に関する問題点の解決に結び付く糸口を見つけていきたい。

石川：6 月 2 日環境フェアに環境プロジェクトとして参加し、重曹を参加者へ配布。本日は寿教室で国立音楽大学の楽器学資料館へ見学。昨日は高松学習館の地運協を傍聴。高松の地運協では地域学校コーディネーターの話が全く出ていなかった。来週は柴崎学習館の地運協を見学予定。

（５）地域学習館運営協議会交流会について

・次回の日程は 9 月 25 日（水）18：00～（会場：本庁 302 会議室）

・地域学習館運営協議会交流会の研修会を含む開催頻度について

石川：研修会はやらなくても良いのではという意見がある。

広瀬：交流会と研修会の違いが分からない。

加藤：両方一緒のようなもの。前回は講演会があり、グループで話し合いをした。

大槁：交流会は情報交換会。それぞれの地運協がやっている活動を発表した。

広瀬：年 2 回で良い。出ると価値があると感じる。消極的なところほど出たほうが良い。

大槁：地域学校コーディネーターと地運協の関わりの情報交換ができたら良い。学校を支える連携や協同をどうしていくか。

岩元：学社一体の実践がはじまっている。

石川：西砂の地運協はテーマも決まっていて、年 2 回の実施希望と報告する。

（６）その他

5.　その他

森：地域学校コーディネーターに運営協議会の日程をお知らせすると良い。

※次回開催；次回は、7 月 18 日（木）午後 6 時～　西砂学習館